

医療薬学複合演習

《担当者名》教授 / 柳川 芳毅
 教授 / 泉 剛 教授 / 町田 拓自
 准教授 / 木村 治 准教授 / 鹿内 浩樹 准教授 / 水野 夏実

【概要】

これまでに学んだ薬理・病態・薬物治療に関する基礎的な知識を集約して学修することにより、これらの分野を統合的に理解し薬物療法における幅広い応用力を身につける。

【学修目標】

薬理・病態・薬物治療の基礎的事項を修得し、各種疾患に対する薬物療法とその科学的根拠を総合的に理解できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	自律神経系に作用する薬物 教科書1:p1~61 資料配布	主な自律神経系に作用する薬物の作用機序を説明できる。 交感神経に作用する薬物の基本構造と薬効との関連を概説できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(1)- E2-(1)-	町田 拓自
2	血液・造血管系疾患 教科書1:p401~431 教科書2:p94~152 資料配布	主な血液・造血管系疾患の発症機構を説明できる。 主な血液・造血管系疾患治療薬の作用機序を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(3)-	町田 拓自
3	中枢神経作用薬(1) 資料を配布する。	全身麻酔薬、麻薬性鎮痛薬について説明できる。 パーキンソン病、統合失調症、気分障害の病態と治療薬について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(1)-	泉 剛
4	中枢神経作用薬(2) 資料を配布する。	不安障害、睡眠障害、てんかん、脳卒中、認知症、片頭痛、ADHD、およびその他の神経疾患の病態と治療薬について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(1)-	泉 剛
5	代謝系疾患 資料配布	代謝系疾患の発症機構と病態を説明できる。 代謝系疾患の治療薬の作用機序を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(5)-	水野 夏実
6	内分泌系疾患 資料配布	内分泌系疾患の発症機構と病態を説明できる。 内分泌系疾患の治療薬の作用機序を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(5)-	水野 夏実
7	1) 腎・泌尿器系疾患 資料配布 2) コリンエステル類の構造活性相関 資料配布	主な腎・泌尿器系疾患の発症機構を説明できる。 主な腎・泌尿器系疾患治療薬の作用機序を説明できる。 コリンエステル類の基本構造と薬効の関連を概説できる。	水野 夏実

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(3)-	
8	循環器疾患 教科書2:p26～40 当日に講義資料を配付する。	不整脈（心房細動）並びに関連の深い疾患を列挙し、その治療方針や薬物の薬理作用について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(3)-	鹿内 浩樹
9	循環器疾患 教科書2:p58～79 当日に講義資料を配付する。	高血圧と関連する循環器疾患について概説できる。また、その治療方針や薬物の薬理作用について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(3)-	鹿内 浩樹
10	1) 呼吸器疾患 教科書1:p455～475 教科書2:p312～375 資料配布 2) 麻薬性鎮痛薬の構造活性相関 資料配布	主な呼吸器疾患の発症機構を説明できる。 主な呼吸器疾患治療薬の作用機序を説明できる。 麻薬性鎮痛薬の基本構造と薬効の関連を概説できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(4)- -1～4	鹿内 浩樹
11	消化器系疾患 教科書1:p503～509 資料配布	主な消化器系疾患の発症機構を説明できる。 主な消化器系疾患治療薬の作用機序を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(4)-	木村 治
12	免疫・アレルギー疾患 教科書1:p287～336 資料配布	主な免疫・アレルギー疾患の発症機構を説明できる。 主な免疫・アレルギー疾患治療薬の作用機序を説明できる。 糖質コルチコイドの基本構造と薬効の関連を概説できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(2)- ~	柳川 芳毅
13	感染症 教科書1:p557～586 資料配布	主な感染症の発症機構を説明できる。 主な感染症治療薬の作用機序を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(7)- ~	柳川 芳毅
14	抗悪性腫瘍薬 資料配布	主な抗悪性腫瘍薬（化学療法薬、ホルモン関連薬など）の作用機序や副作用を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(7)- 、	柳川 芳毅
15	抗悪性腫瘍薬 資料配布	主な抗悪性腫瘍薬（分子標的薬など）の作用機序や副作用を説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(7)- 、	柳川 芳毅

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

中間試験（筆記試験）（20％）と定期試験（筆記試験）（80％）で成績を評価する。

【教科書】

- 1 「詳解薬理学」 廣川書店
- 2 「薬物治療学」 南山堂

【参考書】

- 1 「病気がみえる」1 MEDIC MEDICA
- 1 「病気がみえる」2 MEDIC MEDICA
- 1 「病気がみえる」3 MEDIC MEDICA
- 1 「病気がみえる」4 MEDIC MEDICA
- 1 「病気がみえる」5 MEDIC MEDICA
- 1 「病気がみえる」6 MEDIC MEDICA
- 1 「病気がみえる」7 MEDIC MEDICA
- 1 「病気がみえる」8 MEDIC MEDICA
- 1 「病気がみえる」9 MEDIC MEDICA
- 1 「病気がみえる」10 MEDIC MEDICA
- 1 「病気がみえる」11 MEDIC MEDICA
- 1 「病気がみえる」12 MEDIC MEDICA
- 2 「薬がみえる」1 MEDIC MEDICA
- 2 「薬がみえる」2 MEDIC MEDICA
- 2 「薬がみえる」3 MEDIC MEDICA

【備考】

必要に応じて講義プリントを配布する。
状況に応じて遠隔授業とする場合がある。

【学修の準備】

予習としては、次回の授業範囲の教科書を読んで、理解しておくこと（50分）。
復習は、プリント、講義メモ並びに教科書、参考図書を活用して学修を深めること（50分）。

【関連するモデル・コアカリキュラムの到達目標】

E2 薬理・病態・薬物治療

- (1) 神経系の疾患と薬
 - 【 自律神経系に作用する薬物】 -1～4
 - 【 体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療】
 - 【 中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】 -3～10
 - 【 化学構造と薬効】 -1
- (2) 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬
 - 【 免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】 -1,3,5,8
 - 【 骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】 -1～4
 - 【 化学構造と薬効】
- (3) 循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬
 - 【 循環器系疾患の薬、病態、治療】 -1～5
 - 【 血液・造血器系疾患の薬、病態、治療】 -1～5
 - 【 泌尿器系・生殖器系疾患の薬、病態、治療】 -2～8
- (4) 呼吸器系・消化器系の疾患と薬
 - 【 呼吸器系疾患の薬、病態、治療】 -1～4
 - 【 消化器系疾患の薬、病態、治療】 -1～8
- (5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬
 - 【 代謝系疾患の薬、病態、治療】 -1～3
 - 【 内分泌系疾患の薬、病態、治療】 -1～5
- (6) 感覚器・皮膚の疾患と薬
 - 【 眼疾患の薬、病態、治療】 -1～3
 - 【 耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療】 -1,2
 - 【 皮膚疾患の薬、病態、治療】 -1～4
- (7) 病原微生物（感染症）・悪性新生物（がん）と薬
 - 【 細菌感染症の薬、病態、治療】 -2,7
 - 【 ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】 -3,5
 - 【 真菌感染症の薬、病態、治療】 -2
 - 【 原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】 -2
 - 【 悪性腫瘍】 -1～3
 - 【 悪性腫瘍の薬、病態、治療】 -1～13

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。

3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域のおよび国際的視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。

【実務経験】

町田 拓自(薬剤師)、泉 剛(医師)、水野 夏実(薬剤師)、鹿内 浩樹(薬剤師)、木村 治(薬剤師)、柳川 芳毅
(製薬企業において創薬研究に従事)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での医師、薬剤師としての実務経験を活かし、実践的な教育を行う。
創薬に携わった実務経験を活かし、実践的な教育を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している